



PRESS RELEASE

令和 8 年 10 月 16 日

腹腔鏡下移植用部分肝採取術（右葉・左葉グラフト）の保険診療を開始

◆発表のポイント

- ・2026 年 4 月より、生体肝移植術において腹腔鏡下移植用部分肝採取術（右葉・左葉グラフト）が保険適用となりました。
- ・岡山大学病院肝・胆・膵外科では、保険収載に合わせて 2026 年 9 月より「腹腔鏡下移植用部分肝採取術（右葉・左葉グラフト）」を開始しました。

2022 年 4 月に生体肝移植において腹腔鏡下移植用部分肝採取術（外側区域グラフト）が保険適用となりました。その後、令和 8 年度診療報酬改定にて腹腔鏡下移植用部分肝採取術（生体）が外側区域のみならず左葉グラフト、右葉グラフトにも適用拡大されました。保険診療として腹腔鏡下移植用部分肝採取術を行うには一定の術者基準と施設基準を満たす必要があり、これまで岡山大学病院肝・胆・膵外科では、高木弘誠講師を中心に導入の準備を行ってきました。

今回、岡山大学病院 肝・胆・膵外科では、2026 年 9 月より「腹腔鏡下移植用部分肝採取術（右葉・左葉グラフト）」を開始しました。

◆研究者からのひとこと

腹腔鏡下移植用部分肝採取術（生体）は、生体肝移植におけるドナー（提供者）の負担を減らすため、腹腔鏡を用いて肝臓の一部を安全に採取する高度な外科手術です。

従来の開腹手術に比べて傷が小さく、術後の疼痛や出血量が少ない腹腔鏡下手術は、整容性の面で優れており、早期の社会復帰が期待されます。



高木講師



PRESS RELEASE

■発表内容

<実績>

岡山大学病院肝・胆・膵外科では、1996年に生体肝移植術を導入し、これまで2026年9月までに551例の肝移植術（生体473例、脳死78例）を実施してきました（図1）。従来成人の生体肝移植のドナー手術（右葉・左葉グラフト）では、開腹手術が中心でしたが、2026年4月の保険収載を経て、2026年9月に「腹腔鏡下移植用部分肝採取術（右葉・左葉グラフト）」を開始しました。

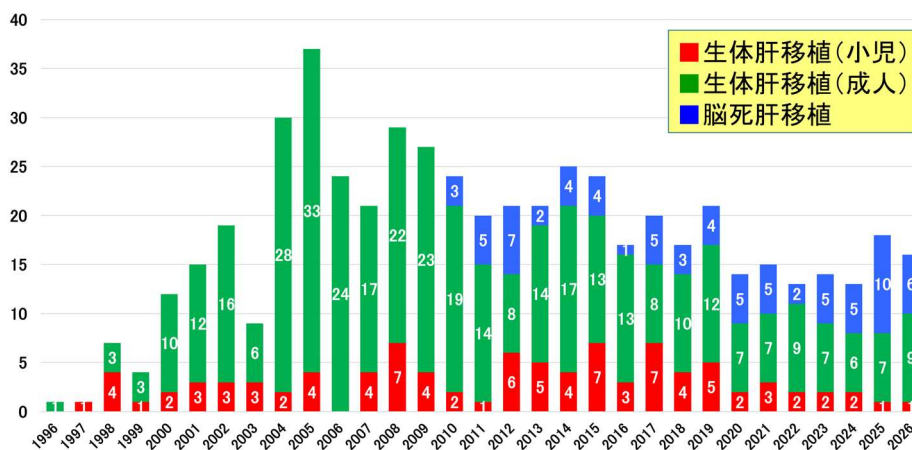


図1 岡山大学病院における肝移植術の年次推移

生体ドナーの移植用部分肝採取術（右葉・左葉グラフト）は複雑で高度な技量を要する手術であり、安全な実施には多くの生体ドナー手術と鏡視下肝切除の経験が必要です。当院には、これまでの生体ドナー手術の経験に加え、約400例の鏡視下肝切除の経験があり、今回安全に導入することができました。

<今後の予定>

岡山大学病院では、生体ドナーの安全性を最優先とし、厳格な症例選択を行い、当面は5～10例／年のペースで行う予定としています。

<お問い合わせ>

岡山大学学術研究院医療開発領域（岡山大学病院 肝・胆・膵外科）

講師 高木 弘誠

（電話番号）086-235-7257 （FAX）086-221-8775

（URL）<http://www.ges-okayama-u.com/>



岡山大学は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。